

# 献呈の辞

## 田口冬樹先生のご退職に寄せて

経営学部での研究・教育に、45年間の長きにわたってご尽力いただいた田口冬樹先生が、2019年（平成31年）3月末日をもって定年でご退職されることになりました。約束ごととはいえ、田口先生が本学の教壇を離れることは、非常にさびしいものがあります。特に、経営学部は、来年度より二学科制に移行し、その中では、田口先生がこれまで積み上げてこられた知識・経験がますます生きてくると考えられることから残念でなりません。ここに、田口先生のご略歴やご足跡、そして本学や社会への貢献を紹介し、衷心より感謝の意と惜別の念を表したいと思います。

田口先生は、1948年12月に秋田県でお生まれになり、1971年3月に本学経営学部経営学科をご卒業なさいました。ご卒業後、本学大学院経済学研究科修士課程に進学し、そのまま博士課程へと進まれ、1976年3月に単位取得満期退学されました。また、1974年4月より経営学部助手として入職され、1977年4月には専任講師、1980年4月には経営学部助教授、そして1986年4月には教授に昇格されました。そして、2003年3月には経営学博士号を取得されていらっしゃいます。この間、東京大学経済学部、東京工科大学コンピュータサイエンス学部、文教大学経営学部、東京富士大学経営学部などでの非常勤講師も歴任されていらっしゃいます。

教育面では、田口先生は、マーケティング入門、流通論、ゼミナール、などの専門科目に加えて、大学院の科目を担当されていらっしゃいました。中でも、流通論については、常に人気が高く、受講生も多数いらっしゃいました。ゼミナールについても歴史が古く40期の学生がおり、大学院の修士課程を修了した学生も多く、博士課程を修了した学生4人は全員大学教員（専修大学、石巻専修大学、拓殖大学、中国・厦門理工学院）になられていらっしゃいます。また、大学院の聴講生の中にも、大学教員（愛知学院大学）になられた方がいらっしゃいます。

これに加えて、1987年～2014年に実施された国際交流プログラムの「専修大学特別プログラム (Senshu University Special Program)」, 「国際交流日本理解プログラム (the Japanese Business, Culture and Language Program)」, 「日本経営コース」では、英語による日本の消費者行動、流通システムおよびマーケティング戦略の講義を担当されています。

学内行政においても、田口先生は多大なる功績を残していらっしゃいます。経営研究所長2年や、学生部委員6年、入学試験委員会委員2年などに加えて、全学FD委員会委員、図書館委員会委員、出版企画委員会委員、就職指導委員会委員、自己点検・評価運営委員会委員、自己点検・評価委員会委員、国際交流センター運営委員会委員、国際交流センター委員会委員、教養教務委員会委員、教員資格審査委員会委員、企画委員会委員、経営学部長補佐など数々の委員を長きにわたり歴任されております。

一方、研究成果について言うと、ありあまるほどのすぐれた研究論文がございますが、これに加えて、共著は10冊、そして単著が5冊あります。この内の代表的な単著である「体系流通論」については、日本商業施設学会で学会賞優秀著作賞を受賞（2006年9月）しており、この著書により学位を取得されていらっしゃいます。本書は、流通を体系立てて理解できるように考え編集されたものであり、基礎的・原理的な視点と体系的な理解とを習得できるように、とても分かりやすく説明されている専門書です。学部や大学院、実務家、経営コンサルタント、研究者にも参考とされる力作であり、非常勤として教えていた東京大学においても、この本が教科書として使用されておりました。

以上、田口先生のご活躍の一端を紹介させていただきました。田口先生の教育、学内行政、そして研究および社会貢献におけるご功績は大変顕著なものがあり、このようなご功績に対して、専修大学経営学部は、2018年11月27日の教授会において、満場一致で田口先生を専修大学名誉教授に推薦させていただきました。ここに、田口先生からさまざまな形でご指導をいただいた後輩教員の最近の成果を募り、「専修経営学論集第107号」を『田口冬樹教授退職記念号』として田口先生に献呈し、経営学部教員一同、衷心から深甚なる感謝と惜別の意を表する次第であります。

田口先生のご退職後のご健勝とご活躍を祈念するとともに、名誉教授として本学および本学経営学部にさらなるご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます、これまでのお礼とお別れのことばとさせていただきます。

平成31年 3月

専修大学経営学部長 関根 純